

認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）における  
令和4年度終了課題の事後評価結果について

令和5年4月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課

「認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）」における令和4年度終了課題の事後評価結果を公表します。

1. 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業の運営の改善に資することを目的とします。認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業（認知症）では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面審査及びヒアリング審査による事後評価を実施しました。

2. 事後評価対象課題

研究開発課題名：軽度認知症者と家族介護者へのグループ型同時介入プログラムの効果検証

研究開発代表者：斎藤 民

研究開発機関名・役職：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター  
老年社会科学研究部 部長

評価コメント：「アート鑑賞・自己表現プログラム」及び「多職種による心理社会プログラム」の2つのプログラムを開発し、コロナ禍の影響を受けながらも介入プログラムを遂行し、有効性は確認できなかったものの統計解析結果を報告した。プログラムの改善点の検討を期待する。

研究開発課題名：認知症に対する非薬物療法のエビデンス創出に資するデータ品質一元管理センターの基盤構築と継続的研究支援のための体制整備

研究開発代表者：平川 晃弘

研究開発機関名・役職：国立大学法人東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科  
臨床統計学分野 教授

評価コメント：EDC構築により他研究を支援し、エビデンスレビューを行い、データの二次利用の仕組みを提示した。事業終了後もアカデミアのリソース

で維持可能な EDC を開発し、EDC を更新することで得られるデータベースをポータルサイト上で容易に閲覧・検索できる環境を整えたことが評価された。

### 3. 課題評価委員会

書面審査： 令和5年1月18日～1月30日

ヒアリング審査： 令和5年2月17日

### 4. 課題評価委員（◎：評価委員長、○：副委員長）

秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科教授
池淵 恵美	帝京平成大学臨床心理学研究科教授
大町 佳永	国立精神・神経医療研究センター病院医長
小川 敬之	京都橘大学健康科学部作業療法学科教授
繁田 雅弘	東京慈恵会医科大学精神医学講座教授
高橋 良輔	京都大学大学院医学研究科教授
武田 雅俊	大阪河崎リハビリテーション大学認知予備力研究センター 学長／センター長
玉腰 暁子	北海道大学公衆衛生学分野教授
○中島 健二	国立病院機構松江医療センター名誉院長、鳥取大学名誉教授
堀田 聡子	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
◎本間 昭	お多福もの忘れクリニック院長
本間 一弘	産業技術総合研究所名誉リサーチャー

（敬称略）

### 5. 評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上